

栗井地区村創りの会 第3回収穫祭を終えて

■絆とやすらぎの里栗井村



会長挨拶
収穫祭の目的。野菜や加工品の改良など今後も協力して継続していこう。



山本市議会議員
「栗井地区の活性化を進めていこう。」
村創りの会創設期からの最強の応援団。



栗井の郷土料理に長蛇の列。30分で完売。相変わらずの人気です。



焼きそば(100)、うどん(100)、サンマの塩焼き(180)全て完売。お疲れ様でした。

みまちゃんネル取材
一人三役、親戚を見つけ急遽アシスタントに採用。見事な仕事ぶり。13日放送。



副会長閉会挨拶
地区民の協力と団結を。食事も抜きで本当にご苦労様でした。



■「第3回 収穫祭を終えて」

◎今回の全体反省

・目的

単なる祭りではない。少なくとも理事は目的を共通理解しておく。講演していただいた藻谷浩介氏(里山資本主義)の「田舎は宝物の山」を実践していく手段でもある。

・期日と日程

11月の第一週の日曜日、早くて冬野菜が間に合わないという声もあるが、遅くなると夏野菜が出なくなる。早生を栽培するなど栽培技術で対応し、天候の安定したこの時期を変えない。

今回、品物がなく一時間繰り上げての終了となったので、日程と出店内容の検討が必要。出店は、子ども対象の「綿菓子」「ポン菓子」「ポップコーン」「焼き芋」等を取り入れ、協力者を増やしていく。

・会場設置

会場も今まで通りとする。ただし、雨天の場合は校舎と体育館の間とする。

◎次回(2020)に向けての部署別反省と課題

・販売担当

各担当部署の反省と課題

☆野菜売り場「農水部担当」村創りの会

開始直後に一時的に多くの人員を配置し接客する。農水部会で決めていた手順でチームプレーとする。今回、ルールを確認せず加わった人がいた。このことが後で会計担当に大きな負担を助けた。

「フルミ」を集めてサービスし、割り方の実演を通しての交流は今後のイベントのあり方の大きなヒントとなった。

☆焼きそば「栗井福祉ボランティアの会担当」村創りの会

大変うまくいった。素晴らしいチームプレーであった。

☆うどん「栗井中の農水部が担当」村創りの会

人員がたりず、担当外の2人に負担を助けた。今後4人以上の配置が必要。うどんの茹で具合はとも良かった。

☆サンマ「個人数人に依頼して担当」村創りの会

担当者の行き違いがあり、混乱した。焼き方に焦げすぎない工夫が必要。焼いたサンマの扱いも配慮が必要。

●当初、反省会用に30食程度残しておく予定が、全て売り尽くし、役員や、交通整理の方の食事がなくなった。次回は役員等の食事の確保が必要である。

☆レインゲーム「A氏急用、急遽Y氏代役」村創りの会

12時50分を11時40分に早めて行った。そのため、放送を聞き逃したR君は楽しみにしていたのに参加が遅れた。A氏は12時50分に合わせてきたため、すでに終わっていた。大変申し訳なかった。進行はともスムーズに行えた。

・次回に向けて

農産物の栽培や、農産加工品の開発に向けて農水部が中心となり、研究と、会員募集が必要。「エゴマの会」の会員が倍増してきた。参考になる。餅つき機の活用と、6次産業化の取り組みも継続が必要。日頃の取り組みの延長でないと、一時しのぎで根付かない。常日頃の仲間作りと継続した実践が必要だ。

■収穫祭の御礼

今回も収穫祭を無事終えることが出来ました。安全協会や消防団、大倉巡査の全面的な協力のおかげと感謝いたします。

また、栗井地区の方も開始前から大勢参加していただきました。地域の活性化は、一人ひとりの活性化が全てです。今後も栗井地区の行事への参加と、ご支援、ご協力宜しくお願い致します。

